

本号のテーマ： **できないことは「伝えるチャンス」**

学校教育の現場において、「精神的な体罰」は残念ながら少なからず存在していると感じます。例えば、「ロッカーの上に水筒やモノを置かないで」という先生の指示に対して、児童が守れず叱られるとします。

「あなたはできてないから、今日の宿題は漢字1ページ追加ね!」。「やってないなら、休み時間ナシね!」

「できていない＝罰を受ける」という叱り方が身の回りではありませんか？実は、私たち母親にもよくあります。「テストでいい点数取らなかったら、お小遣い減らすよ!」とか。相手が一番やられてイヤなことを引き合いに出すのです。それが一番効果的だと思うのでしょうか。「言うこと聞かなかったら〇〇（罰）するよ!」「できなかったら〇〇だよ!」



考えてみてください。「言うこと聞かなかったら」と言うのは正しい叱り方でしょうか。誰を基準としていますか？私も正直よくそのように叱ったことがあります。

なぜ叱るのか？我が子に、「良いこと・悪いこと」を教えるために叱るのです。「言うこと聞かないと・・・!」は親のパワハラ以外何ものでもありません。

「大人の言うこと聞かないと」→「言うこと聞いておけば安全」「言うことさえ聞いておけば面倒じゃない」。そうやって自分の意見を言うことができない学生や指示待ち人間、自分で考えることができない社会人が出来上がっていくのです。

幼少期ならある程度「ママが怒るから」で致し方ありませんが、小学生ともなれば「なぜそうしないといけないか」簡潔に伝えれば理解できるはずです。

「ロッカーの上に物を置かない」というのは、見た目も悪く勉強する環境に良くないものとして、クラスで決めたルール。大人になっても社会ではルールを守って生きている。今はルールを守る練習。だから罰（子どもが嫌がること）を与えるのではなく、ルールを守れるようになるための何かに取り組むようにする。

例えば、一定期間ロッカーや下駄箱の整理整頓をする係をさせるとか、できなかった時こそ、どうしてそうして欲しいかを伝えるチャンスだと思うのです。このように対応すれば、できなかったことがマイナスにならず、プラスになるはずです。

母親として感情的になる時も、「怒り以外の感情」であれば、ぶつけてもいいと思います。心配したり、驚いたり、悲しかったり・・・「本当に心配したんだよ!」「お友だちにそんな言葉を使うなんて、悲しくてたまらない!」とぶつけて、心からの信頼関係を築いていって欲しいと思います。

## 「教職員の働き方改革に教育支援システムや SNS を導入」

今まさに教育現場に戸惑いが見られる「働き方改革」。言うのは簡単、されど現場の先生の仕事は増える、人が減る等でテンテコマイ! 研修や会議は教育の質を上げるために必要不可欠なのに時間が足りない。工夫している先生や学校も見られますが、もっと先生たちが意欲的に仕事に取り組み、さらに児童生徒に寄り添える教育現場を作るため、新しい「教育支援システム」を作るべきだと私は思います。

ドイツ語圏には学校向けにクラスや生徒の管理が行える教育支援システムがあるそうです。教師間のコミュニケーションがとれたり、学習計画、時間割り、学習進度チェック、生徒名簿、特記事項、成績調査などクラス単位で管理ができるシステム。教師同士の機能として電子メール、メッセージ、掲示板、チャットルーム、Web 会議などがあり、教師間の横のつながりを強化できるそうです。

【企業サイト】DigiOnline GmbH 参照

これは国や県が取り組むべきことであると考えますが、今すぐに取り組めるツールを考えるなら、ZOOM や Facebook でしょうか。Twitter はあまり適さないと思いますが、Facebook のメッセージはメッセージもファイルも送れますし、非公開のグループも作れます。ZOOM では世界中どこにいても複数人で顔を見ながら会議ができます。教育者の立場にいる他の先生方との交流を持たなければ、教育現場に問題が生じてきます。独りよがりの閉鎖された空間の中では質の良い教育は生まれませんからです。

学びの場や共感・共有の場が今以上に少なくなってくるでしょう。人と話をするなかで気付いていなかったことに気付いたり、自分の思いを吐き出すことで共感してもらえたりすることは、とても大きな学びとなり、教育現場で活かされていくと思います。

教育現場に IT が入る前に、IT を利用して使い方を知っている先生にならなければいけません。Wi-Fi 環境の充実によって IT を活用できる環境となっていけば、忙しい先生方の QWL (Quality of Working Life (クオリティ・オブ・ワーキングライフ)) 向上の一助にもなるのではないかと思います。